

[3] 発展期 昭和11年(1936)～昭和20年(1945)

二度の大被災に遭うも蔵書を守り市民啓発を続けた図書館 室戸台風と戦災からの再興

あらまし

モダンな館舎の完成とともに専任館長を迎えました。戦時下にもかかわらず、図書館の仕組みの整備が進み、市民啓発活動も盛んでした。こうした努力により図書館の意義が市民に再認識され、年々利用者が増加し図書館の発展期を迎えました。

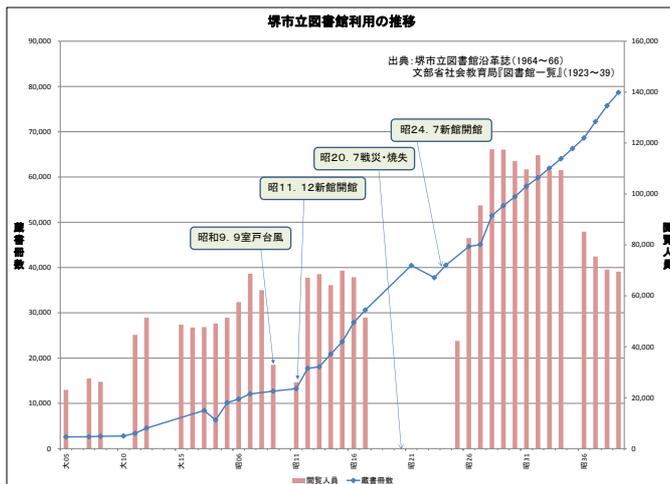
その要因は…

- ① 図書館は、市民を熱く啓発した
- ② 市民は、図書館の意義を認識して利用を増やし、寄贈や寄付で支えた
- ③ 館員は、手作り防護壁を築くなど戦時下の図書館を守り、蔵書が被災から救って次代へ引き継いだ …などによるものです。

年表

西暦	和暦	項目	内容	発展の要因
1934	昭和9	9/21 8時室戸台風米袋図書館大破休館 11月書庫を残し館舎取壊し		
1935	10	2月～図書館復興委員会開かる	10月願本寺境内借地に建設と決定	
1936	11	6/15図書館新築工事着工～11/27完成 12/5開館(宿院町東3丁願本寺境内) 図書館館則公布 図書館開館規定公布	近世スウェーデン式モダン図書館完成 (延300坪工費3万円) 被災を免れた蔵書約1万3千冊	
1937	12	9月初代専任図書館長田島清氏着任～S218 (戦時中9年間在任)		
1938	13	「図書目録」分冊刊行始め(昭和17年度まで毎年刊行) 4月無料貸出開始(保証人設定者対象) 青年読書クラブ(後の芸友会)結成	図書館→市民啓発 青年団読書修養会・文化講習会 塚史談会 吏員有志読書会・童話教育研究会 小学校10校児童に図書館を参観させ館長講話 市民各層に図書館利用動向調査	① 図書館は市民を熱く啓発した。図書館はその都市の精神力の象徴であり、市民各位に切望する処は図書館の再認識の上に立つ利用と協力であります。(田島館長コラムから)
1939	14	和泉日日新聞田島図書館長市民啓発コラム別掲紹介 図書館年報(啓発状況紹介)	図書館→市民啓発 小学校教育古典研究会 青年団読書修養会 塚史談会 読書会	
1940	15	10月「科学技術振興会」結成	図書館→市民啓発 青年団読書修養会 科学振興会	② 市民は図書館を守り育てよう。図書館の寄贈や資金の寄付が相次いだ
1941	16	11月社本美一氏より1万円寄付 12月「第二次世界大戦」開戦	青年読書会 芸術家報国連盟 芸友会	③ 市民→図書館の意義を再認識し昭和13年度、貸出件数1587人、貸出冊数3155冊を記録。以降も利用者は毎年5割～6割増と順調な伸びとなった ④ 市民→図書館支援 寄付金 2万3千円 図書寄贈者281人(各5年間)
1942	17	6月「堺芸術家報国連盟」結成 永尾真一郎氏より1万円寄付(永尾文庫となる)		
1943	18			
1944	19	12月古家氏蔵書約3千冊寄贈		
1945	20	7/10夜空襲で書庫(約4万冊)除き館舎全焼(昭和21年8月 田島館長離任 9月木村寿雄館長就任)	館員→図書館を守った 灯火管制下でも読書できるように工夫 空襲から蔵書を守るため手作りで書庫一階に防護壁を造った	③ 館員は、「文化」に対する愛情と情熱から手作り防護壁などで蔵書を守りぬぎ、次代へと送り継いだ

利用状況



館長の意気込み



当時の新聞(和泉日日新聞)に、堺市立図書館初代専任図書館長が執筆したコラムが掲載されました。

連載コラム(昭和13年6月～7月)

「図書館を再認識せよ」(1)～(8)

執筆者: 田島 清 堺市立図書館 初の専任館長

昭和12(1937)年9月就任(元大阪府立図書館司書)

掲載紙: 和泉日日新聞 (<本局>堺市榊屋町大道 <支局>大阪市阿倍野筋

<支局>泉北郡阪和風駅前 <支局>長野町北野田駅前)

連載コラム(8)「堺市立図書館の現実」より抜粋

「図書館の不振は全国的であるかも知れませんが、本市のごとき新興の意気に燃ゆる都市では、他の都市の水準に甘んずるべきではありません。図書館を盛大に育て、真実に利用することはその都市の精神力の源泉を涵養(かんよう)する所以です。これを結果的に見て、図書館はその都市の精神力の象徴だと云われるのです。すなわち市民各位に切望する処は、図書館の再認識の上に立つ、利用と協力です。」

➡ 以上のように、新館をオープンしてソフト面での充実をはかりつつある堺市の図書館について意気込みを述べています。



田島 清館長

※連載(1)が掲載されていたと推測される昭和14年6月19日前後の新聞が残っていない。

(2) 1-日 読書の意義 (昭和14年6月23日) (3) 1-八 図書館の機能 (昭和14年6月24日) (4) 2 読書利用のすすめ 修養の進場としての図書館 (昭和14年6月27日)



(5) 修養の進場としての図書館 習熟の向上、学術的研究 (昭和14年6月29日)

(6) 習熟の向上、学術的研究 習熟としての図書館 (昭和14年6月30日)

(7) 習熟としての図書館 (昭和14年7月1日)

(8) 3 堺市立図書館の現実 (昭和14年7月3日)



『閲覧状況事務報告一件』

作成者：堺市立堺図書館(当時)

作成時期：昭和11(1936)年～昭和31(1956)年

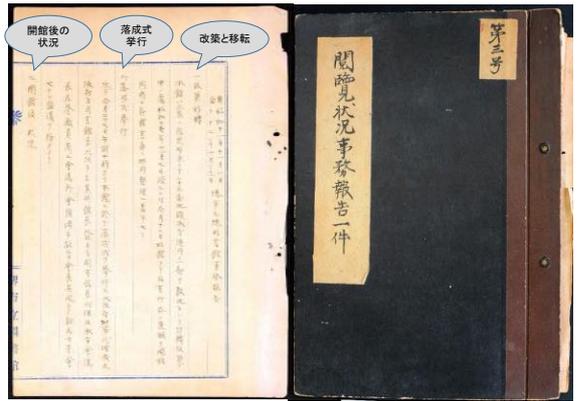
この資料は、堺市立堺図書館(当時)によって作成された毎年の事務報告書を綴ったものです。

昭和9(1934)年の室戸台風で大破した図書館は、昭和11(1936)年に宿院町の顕本寺境内に新築オープンしました。この簿冊には昭和11年以降昭和31(1956)年に至るまでの約20年間の図書館の記録が記されています。

ここでは、開館した昭和11年とその翌年(昭和12年)の様子を取り上げて紹介します。

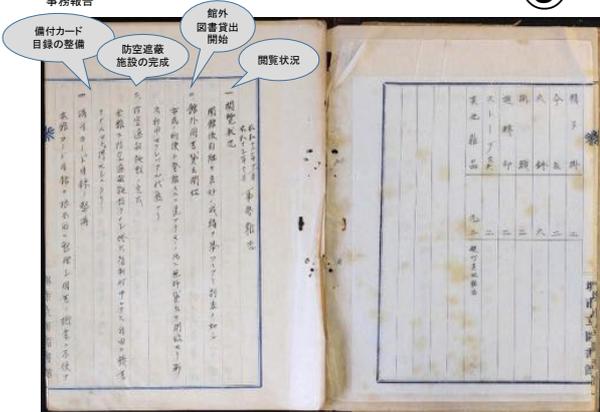
昭和11(1936)年11月1日～同12(1937)年10月31日
事務報告

①

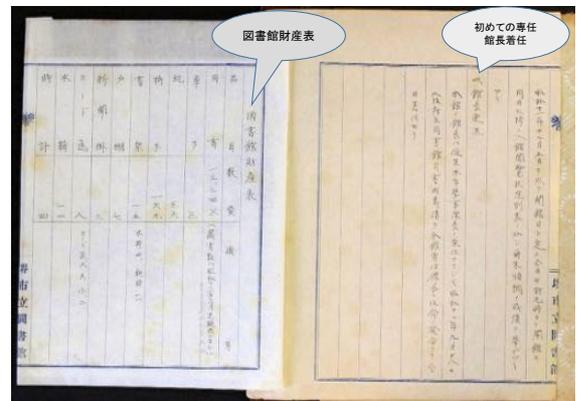


昭和12(1937)年11月～同13(1938)年10月
事務報告

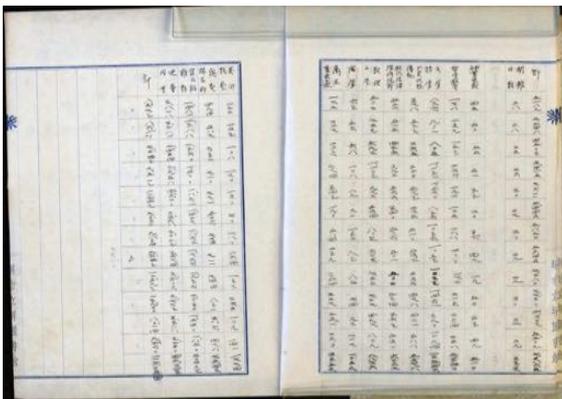
③



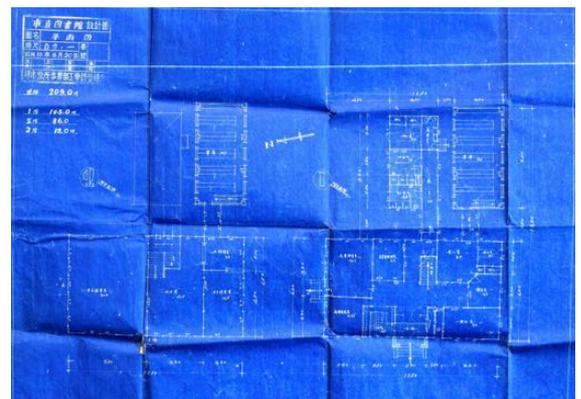
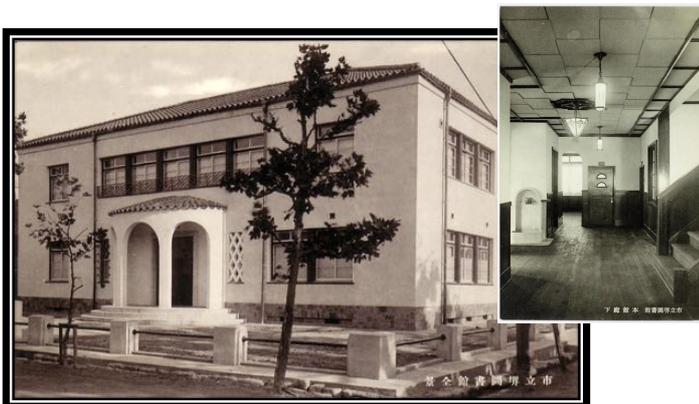
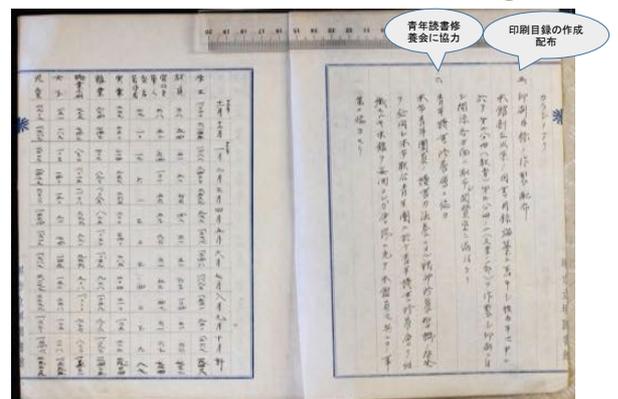
②



⑤

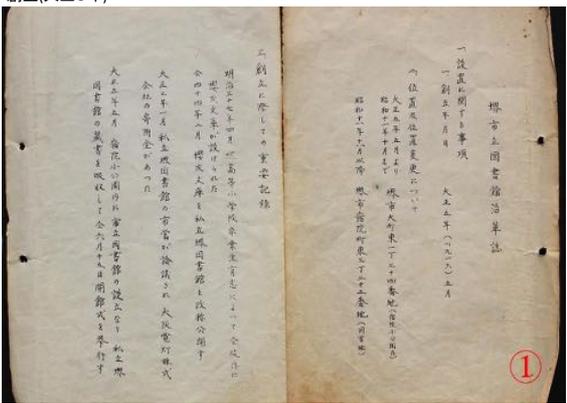


④



『前史から創立50周年までの図書館の歩み』

創立(大正5年)



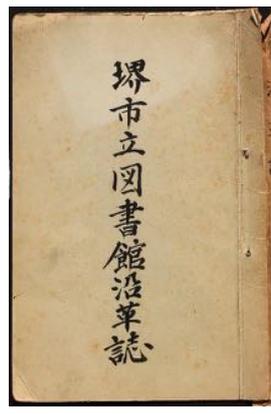
『堺市立図書館沿革誌』
 作成者：堺市立図書館
 作成時期：昭和38(1963)年～昭和41(1966)年頃

この『沿革誌』は、堺市立図書館の歴史を記したものです。堺市立図書館によって作成されました。

大正5(1916)年に開館した堺市立図書館は、昭和41(1966)年に創立50周年を迎えました。この『沿革誌』には、最も古い内容として市立図書館の前身である明治37(1904)年の親友文庫の記載があり、また最も新しい事柄では昭和41(1966)年9月の図書館修繕工事の記載があります。

つまり、創立50周年を迎えるにあたり、これまでの図書館の歴史をまとめたものであると推測されます。

その内容には、図書館の成り立ちからはじまって、建物平面図、蔵書統計、閲覧者数の統計、経費予算書などが含まれています。



移転(昭和11年)

